

# Structure Kansai Vol.42 1994

## 1994年度支部総会開催



総会風景



懇談会風景



支部長就任にあたって

青柳 司

久徳前支部長が突然東京転勤になり、残りの任期を引き継ぐというつもりで、関西支部長を引き受けさせていただきました。構造家懇談会の発足より十数年が経ちましたが、色々な理由で役員の交代が滞っています。次回に大幅に変わろうと話していた矢先で、ちょっと困惑していますが、予定通り実行したいと思います。また、技術者協会になつた折に、本部の技術委員会を大幅に改組しましたが、支部は前のままの運営をしているため、本部との連動がうまくいっていないません。そこで支部の技術委員会（分科会を含む）を改組したいと思います。

一方、支部の活動はというと、去年より始まった構造士の講習・面接・試験などで時間がとられ、あまり活発ではなかつたと感じています。今年も引き続き構造士関連で大変だとは思いますが、地道に活動を続けて行きたいと思っています。

微力ではありますが、支部のためにがんばりたいと思っておりますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

(社)日本建築構造技術者協会関西支部の第5回総会が開催されました。

月 日 5月25日（水）  
場 所 建設交流館  
出席者 47名、委任状221通  
議 長 丸岡義臣氏  
議 題 1993年度経過報告、決算報告承認  
1994年度支部事業、予算計画承認  
役員選出について

各議題については満場一致で可決された。

今回の総会で特筆すべきは、久徳敏治氏の退任であろう。

同氏は構造家懇談会発足時から本会のために多大なる御尽力をいただきました。

特に関西支部長として支部の発展に陣頭指揮をとられ、我々の指導にあたってこられましたが、93年度をもって退任される事になりました。今後も顧問としてお力添えをいただることになりますが、今までの功績に対して深甚なる感謝を申し上げます。

新支部長には青柳司氏が就任され支部の運営に御協力戴くことになりました。我々は今までにも増して一致協力して当会の隆盛に励みたいとおもいます。

尚、J S C A関西構造家賞は該当者なしで今回見送りになった。

総会に先立ち定例研究会が催された。  
テーマ 身近な小規模建物を通して、建物と構造計画の楽しみを語る  
話題提供 構造計画分科会

- (1) PONT・NOUVEAU(ポン・ヌーボー)  
SRC+S 7F/B2  
延べ床面積 990m<sup>2</sup>  
意匠 浅井謙建築研究所  
構造 山田建築構造事務所
- (2) 狩口地域センター  
RC+S 2 F  
延べ床面積 660m<sup>2</sup>  
意匠 柳川賢次+クリエーションアーバンデザイン創都  
構造 北條建築構造研究所
- (3) 関西新空港管制塔  
S造 構造階数20F 高さ86.4m  
設計 安井建築設計事務所
- (4) 円運動で構成された住宅  
W+R C 1 F / B 2  
延べ面積 259m<sup>2</sup>  
意匠 戸田潤也建築設計工房  
構造 構造フォルム  
総会後の懇親会は山肩邦男教授をはじめ約80名の出席者のもとで盛大に行われた。

# 日本在住の外国人技術者に聞く

## ガムジョン タナボンルンクル



### 略歴

1962年1月22日 タイ王国生れ  
1986年4月 KINGMONGKUT'S INSTITUTE OF TECHNOLOGY NORTHERN BANGKOK CAMPUS CIVIL ENGINEERING 卒業  
1986年4月に泰大林設計部入社  
1993年1月より1994年7月まで大林組東京本社で研修している。

### はじめに

現在タイでは建築工事が増加しており、いろいろな新技術を利用しています。外国からの建設会社も増えており、日本の建設会社も多く活動しています。それでは簡単にタイの一般的な建築事情を紹介します。

### 建築工事の主なパターン

日系企業（主に工場が多い）一般的にはタイ国内で設計を行っている。但し一部日本で基本設計を行う場合がある。

タイの企業（主に事務所ビル、集合住宅、時々工場もある。）設計はタイの設計事務所が行う。

### 主な架構形式（主に工場）

2つのタイプに区分される。

Aタイプ……柱がRC造で屋根梁はS造が一般的である。鉄骨トラスの弦材とトラス材の仕くちパイプどうしの隅内溶接である。最近は屋根面の吊荷重が大きい場合に、弦材にH型鋼、カットTを用いるケースがある。

Bタイプ……物件数としては少いが柱及び屋根梁共S造の場合がある。梁はH型鋼を用いたり、鉄骨トラスを用いたりしている。この場合も溶接は隅内溶接がほとんどである。たまに日本の場合と同じ様なHTB接合がある。

### 鉄骨用材料

タイで製造している鉄骨用材料は通常ASTM規格のA36級とJIS規格のSS400級。まれにSM490を用いるケースもある。

メーカーはEIT規格、ASTM規格JIS規格など称するものがある。メーカーが少なく地域独占状態なので自由競争原理が働く。

### 使用する鉄骨業者

タイの鉄骨業者のうち程度の高いもの

はS社かY建設に発注している。S社にはラーメン構造を発注している。Y建設にはトラス、簡単なラーメンを発注している。それ以外は工事現場で鉄骨製作をしている。

### タイの建築確認

確認申請……設計図、構造算書等一式を提出する。エンジニア、建築士と工事管理者資格者のサインがあれば、実質フリーパスで許可される。

官庁の完了検査……2～3階建ての住宅は必要ないが、それ以外の建物は完了検査を受ける必要がある。

### 構造設計方法

タイでの構造設計規準はEIT規準（THE ENGINEERING INSTITUTE OF THAILAND）を使用している。

荷重としては自重+LLが主になる。積載荷重は計算による。地震荷重は無し風荷重は日本の一般地域の約1/4がある。

鉄骨用鋼材は通常SS400級でft=0.6F, fc=0.5F, fs=0.4Fで設計している。

## 蘇道遠

私は、1961年中国吉林省に生まれました。1981年に長春建築専科学院建築工学専攻を卒業後、中国鉄道省吉林鉄道局に入りましたが、1988年中国鉄道学会より大阪府中国建設技術交流協会の研修生として日本に派遣され、二年間にわたって株式会社大林組で技術研修を受ける機会を得ました。一時帰国後、更なる勉学のため1992年再度訪日し、現在大阪大学工学部建築工学専攻の修士課程に在籍しています。

中国の建設事情についてということなので、住宅の事に関して少し述べます。

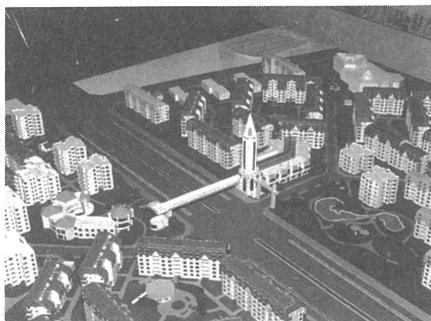
ご存知のように、現在中国では対外開放改革政策が推進されつつあり、これに伴い人々の生活レベルを高めるべく都市住宅団地の建設が進められます。この都市住宅団地の一般的な規模（写真は大連市のある住宅団地の模型）は、住居人口1万～1万5千人、敷地面積16～20ha。住宅棟は5～7階建て、杭基礎、RC構造で一般階の階高2.8m、一戸当たりの

平均延床面積50～60m<sup>2</sup>です。一世帯平均4人で計算すれば、一人当たりの平均面積は12.5～15m<sup>2</sup>で、人口密度600人/ha前後といった大規模なものです。しかしながらご存知のように中国経済は高成長時代を迎えつつあり、都市住宅団地の建設も非常に急速なピッチで進められています。その結果、企画上多くの問題を有しているのもまた事実なのです。特に電話配線、空調設備、駐車場、ごみ処理場等が殆ど考慮されていない場合が多く、問題は深刻化しつつありますし、またガス配管、下水道等のライフラインの整備も十分とはいえない状態です。これらの点に関しては、日本と比べて少なくとも20年以上遅れているようです。

日本の住宅（団地等の集合住宅を含めて）は、基本的な設備はもちろんのこと、個人の生活を重視し住みやすい環境づくりがなされていると思います。例えば、洋室と和室を一戸の家に混在させている

等の空間利用の巧みさ、各所に見られる省エネルギー化を意識した造り等は素晴らしい感じています。

私は来年三月に修士課程を修了しますが、帰国後は大学で学んだ専門知識だけでなく日本の社会で学んだ多くのことを生かし、祖国の発展と中日両国間の交流にベストを尽くしたいと思っています。



## パウル コレネリス ヤコブス

オランダの大都市圏Randstadの現代建築

- 1962 オランダのHaarlemmermeerで生まれる
- 1981 Delft工科大学建築部入学
- 1982 同大学土木学部入学
- 1988 同大学土木大学院修士課程終了
- 1988 兵役で防衛大学の教師を務める
- 1989 熊本大学大学院自然学科入学
- 1992 同大学院自然学科博士課程終了
- 1992 東京大学建築学科客員研究員
- 1993 大林組入社  
現在、東京本社設計第十二部にて構造設計を担当

オランダの大都市圏Randstadは、日本でもおなじみのAmsterdam市やRotterdam市とThe Hague市を含むオランダ西部の大都市圏で、人口は約600万人。名実ともにオランダの経済と文化の中心です。(Fig. 1)

今回はオランダの有名建築が集中するこのRandstadの現代建築を紹介しましょう。

機能性を重視するオランダ現代建築は外観のデザインだけを重視する建築はほとんどありません。オランダでは建築計画と都市計画の結びつきは非常に強く。各都市開発プロジェクトや再開発プロジェクトは法律で定められたマスター・プランに適合しなければなりません。

オランダの現代建築はAmsterdamに株式取引所が建設された時に始まりました。

(1904) この建物の設計者Hendrik Berlageは、構造機能を強調するため伝統的な材料であるれんがと現代的な材料である鉄骨を併用しました。(写真1)

この時代には、より庶民的なれんが造りを主体とした組積構造建築運動The Amsterdam Schoolも同時に興りました。

(1906-1920) The Amsterdam Schoolの建築家による住宅はヨーロッパに普及し、オランダ政府が出資した住宅供給プロジェクトの標準タイプになりました。(写真2)

もうひとつのオランダの現在建築運動は、De StijlのModern Movement(現代運動)でした。建築家Gerrit Rietveldが設計したSchroeder Houseはこの運動の代表作品です(1924)。(写真3)

1930年代と第二次世界大戦の後には、建

物の建設と都市開発には機能的なアプローチが採られました、特にインフラストラクチャと住宅の再建設に焦点が当てられました。1960年代の住宅不足を解消するために、住宅は高層化と大量生産の方向に向かいました。

1970年代に活躍した建築家はAldo van EijkとHerman Hertzbergerです。二人のプレキャスト構造物はヨーロッパの建築に大きな影響を与えました。写真4はDelft工科大学教授のvan EijkによるOrphanage(孤児院)です(1960)。一種類のプレキャスト部材の組み合わせにもかかわらず、創造的な形態と雰囲気を創り出しています。

オランダの建築家で一番有名な建築家はDelft工科大学の教授Hertzbergerです。Centraal Beheer保険会社は彼の代表作品です(1972)。(写真5)

1980年代ではOffice of Metropolitan Architecture(OMA)のRem Koolhaasが世界的に有名になりました。彼の作品の中にはThe Hagueにあるオランダのダンス劇場があります(1987)。(写真6)

Rotterdamの港湾地区の再開発マスター・プランも彼の担当です。RotterdamをManhattanのように変えようとするこの大プロジェクトは現在進行中です(1991)。今売り出し中の建築家はKarlsruhe大学の教授Jo Coenenです。Randstad以外のTiburgにあるHaans事務所(1991)はCoenenの最近の作品です。(写真7)



Fig. 1 : オランダの大都市圏Randstad



写真1 : 株式取引所  
Amsterdam  
Berlage



写真2 : Amsterdam School建築自宅  
Amsterdam  
Kramer



写真5 : Centraal Beheer  
Utrecht  
Hertzberger

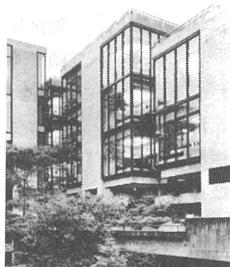


写真7 : Haans事務所  
Tilburg  
Coenen

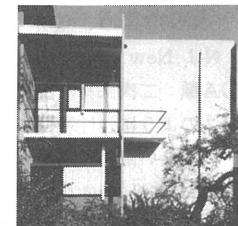


写真3 : Schroeder House  
Utrecht  
Rietveld

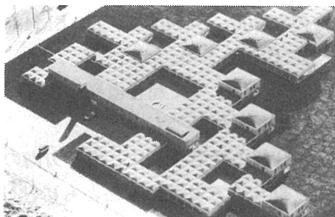


写真4 : Orphanage  
Amsterdam  
Van Eijk

# 建築構造用圧延鋼材 J I S G 3 1 3 6 - 1 9 4 4

(株)竹中工務店 丸岡 義臣

## 1.はじめに

1952年以来、建築の鋼構造物に用いられてきたJIS G 3101一般構造用圧延鋼材、JIS G 3106 溶接構造用圧延鋼材は1989年電炉鋼板とはいへ JIS G 3106の規格品でありながら、柱一梁仕口接合部の通しダイアフラムを使用した場合、溶接中或いは溶接後その鋼板が板厚方向に開裂する事故が発生、隅肉まがいの突合わせ溶接とともに不良鉄骨として大きく社会問題化した。

この事態を重視した通産省は、建設省、日本建築学会等諸団体の協力のもとに建築構造物に用いる熱間圧延鋼材の位置づけ及び現行のJIS規格の見直しを開始、開裂鋼板に対する短期的対応として1992年鋼材の内部品質を保証する措置として超音波探傷試験を行う種類を追加改訂、長期的には建築構造用鋼材のあり方、現行JISの全面的見直しに関わる事項全般について抜本的に審議が行われ、1994年6月今回の建築構造用圧延鋼材 JIS G 3136-1994が制定された。

## 2.主な規定と内容

本規格は JIS G 3101一般構造用圧延鋼材、JIS G 3106 溶接構造用圧延鋼材とは別に建築構造物に用いる熱間圧延鋼材を対象としたものである。

### ①強度レベルと種類

鋼材の使用部位及び現状を考慮し、引張強さ400N/mm<sup>2</sup>クラスのSN400A、B、C及び引張強さ490N/mm<sup>2</sup>クラスのSN490B,Cの5種類（記号SはSteel、Nは New structure）

①A種 二次部材（小梁、間柱）やトラスのように弾性範囲で使用し、溶接を行わない部材を主用途とする鋼種。なお490N/mm<sup>2</sup>クラスのA種は必要性が極めて小さいとして制定されていない。

②B種 塑性変形性能と溶接性の確保を意図したものであり、耐震上主要な構造部材を主用途とする鋼種。

現行のSS400、SM400A、B、SM490A、Bに代わるもの。

オプションによって超音波探傷検査による内部品質の保証も可能。

③C種 B種の性能の上に、板厚方向の特性を絞り値で規定するとともに、U

T検査を実施するボックス柱のスキンプレート等の板厚方向の性能を重視するものを主用途とする鋼種。

### ②鋼材の種類

熱間圧延した鋼板、鋼帯、形鋼及び平鋼。

### ③適用板厚

低層建築物から高層建築物にわたる適用を意図して6mm以上100mm以下。

なおC種の厚さについては、使途を考慮して16mm以上100mm以下。

### ④化学成分

#### ①A種 (SN400A)

現在広く使用されているSS400をベースとしているが、C量の上限値を新たに規定。しかし、溶接性を保証する意図ではない。

#### ②B種 (SN400B、SN490B)

現在のSM400B及びSM490Bをベースとしているが、鋼材の使途、製造技術の実態、使用者側の要望、品質改善も意図し、特にP及びS値が低くなっている。

#### ③A種 (SN400C、SN490C)

上記B種をベースに板厚方向特性を改善した鋼材。板厚方向特性は耐ラメラティア鋼Z25クラスに対応したS量。またP値も低くなっている。

#### ⑤炭素当量又は溶接割れ感受性組成

##### ①A種

溶接接合を想定していないので規定なし。

##### ②B種及びC種

溶接接合を想定しており、溶接性を評価する重要な因子である炭素当量(Ceq)を規定。

なお受渡当事者間の協定によって、Ceqに代わって溶接割れ感受性組成(Pcm)も指定できる。

#### ③熱加工制御を行った鋼板のCeq及びPcmについて

現行一部の建築構造物には、強度レベルを上昇させた熱加工制御鋼板があるが、ここで規定されるものは、これらの鋼板と異なり、あくまでこの規格の強度レベルを保有し、溶接性向上のために熱加工制御を実施した鋼板である。

### ⑥機械的性質

#### ①引張特性（降伏点及び耐力、引張強さ、

降伏比、伸び）

降伏点又は耐力の上限及び降伏比の上限を規定したのは、これらのバラツキがあると建物が大地震を受けた場合、設計で意図した損傷度制御のもくろみを大幅に狂わせるとの使用者側の要望が受け入れられたものである。

### ②シャルピー吸収エネルギー

建築用鋼材に本来必要なシャルピー吸収エネルギー値については、今回の検討では結論が出ず、JIS G 3106 溶接構造用圧延鋼材B種のレベルを採用。

### ③厚さ方向性

厚さ方向に特に大きな引張力が働く部材への使用が意図されているC種については、厚さ方向特性試験実施を義務づけられた。規定値についてはWES 3008-1981耐ラメラティア鋼材の特性に従い絞り値を25%以上。

### ⑦超音波探傷試験

#### ①B種 受渡当事者間の協定で実施。

#### ②C種 全量実施。

### ⑧形状、寸法、質量及びその許容差

特に鋼板、鋼帯及び平鋼の厚さについては断面不足とならないように、原則としてマイナス側の公差を0.3mmに統一。

## 3.制定に至るまでの審議上で特に問題となった事項

①冷間成形角形鋼管（コラム）は、建設省の認定部材として取扱いJIS規格化は今後の検討課題とする。

②建築用TMCP鋼、引張強さ600N/mm<sup>2</sup>以上の高強度鋼は建設省の認定品として取り扱う。

③100mmを越える厚さの鋼材は、建物ごとに建設省の超高層建物等の認定を得て使用する。

④アンカーボルトは、形状・材質を一体化して規格化の方向で今後の検討課題とする。

⑤製品における生産者及び規格種類の識別マークは、生産者ごとに措置する。

⑥シャルピー吸収エネルギーの保証の必要性及びその値については、次回改正時に見直す。

## 4.今後の動向

1994年6月1日付で追加告示された建築構造用圧延鋼材 JIS G 3136を受け、

今後は現 JIS G 3101一般構造用圧延鋼材及び JIS G 3106溶接構造用圧延鋼材より“建築”を削除する改訂作業が行われ1994年12月頃から1995年3月頃にかけて再度告示改正（SS,SMより建築を削除、SS,SM部材との併存期間）が発表される予定。

なお、SS,SM部材との併存期間は、現在のところ1996年3月頃までとの情報を

得ている。  
一方冷間成形角形鋼管（RF,PBコラム）は、諸団体の審議が活発に行われており1995年6月頃には、材料一般認定がなされる予定である。

〔参考文献〕

- ・日本工業標準調査会  
「建築構造用圧延鋼材 JIS G 3136—1994」

- ・（社）鋼材俱乐部  
「建築構造用鋼材に関する働き」  
1994. 4
- ・田原得之・真喜志卓・構造系部会材料分科会  
「建築構造用鋼材（SM材）新JIS規格の概要」StructureNo.51 1994. 7

## 総会記事

### □1993年度関西支部事業報告書

- A 総会 平成5年度支部総会 5/18
- B 支部役員会 3回開催 6/16、11/13、1/17
- C 懇親会 1回開催 5/18
- D 委員会
  - (a)広報委員会 4回 4/20、7/13、10/26、1/12
  - (b)技術委員会 1回 7/14
  - (c)事業委員会 1回 6/10
  - (d)JSKA関西構造家賞選考委員会 2回 5/10、2/16
  - (e)海外研修反省会 1回 8/25
  - (f)海外研修企画会議 1回 1/10
  - (g)技術委員会分科会
    - ・鉄骨分科会 2回 10/18  
(講演会)、11/12(見学会)
    - ・P C・工業化分科会 6回 5/26、7/21、11/9、12/17、2/10、3/16
    - ・基礎分科会 5回 6/8、8/3、10/6、12/7、2/8
    - ・コンピューター分科会 6回 5/19、7/21、9/16、11/17、1/19、2/23
    - ・耐震設計分科会 7回 4/20、6/29、7/27、9/28、11/30、2/1、3/29
    - ・構造計画分科会 6回 4/20、7/24、11/12、12/22、2/8、3/9

- E 講演会および講習会
  - (a)京都会講演会「最近の鉄骨構造に関するもの」 11/4 於京大会館  
—アーバンリサーチーと構造設計のかかわり—  
—鉄骨構造を用いた建築の再生—  
講師 金多潔 京都大学教授

- F 定例研究会
  - (a)海外研修会「ロンドン・パリ最新建築視察」  
期 間 6/25～7/1  
見学先 ドックランド、スタンステッド空港、エンバンクメントプレース、ブロードゲート、ヴィレット、

- デファンス、アラブ世界研究所他  
参加者 35名
- (b)研究会「最近の工業化構法について」 3/16 於建設交流館  
主催 P C・工業化構法分科会
- (c)現場見学会
  - ・関西新空港ターミナルビル 10/13 参加者 60名
  - ・京都会現場見学会 京都岡崎公園地下駐車場 11/6
- G 支部報 Structure Knsai 4回発行 No.37、No.38、No.39、No.40
- H 対外協力、協賛
  - (a)講演会「93. 1.15 釧路沖地震」 於大阪市立大学文化交流センター 5/12  
主催 建築学会近畿支部耐震構造研究部会
  - (b)シンポジウム「鯨の頭をどう、どつく一主にダンパーについて」 於大阪市立大学文化交流センター 12/13  
主催 建築学会近畿支部耐震構造研究部会
  - (c)講演会「1994. 1. 17 ノースリッジ地震」 於大阪市立大学文化交流センター 3/28  
主催 建築学会近畿支部耐震構造研究部会
  - (d)建築関連11団体合同忘年懇親会 於太閤園ダイアモンドホール 12/14
  - (e)建築関連12団体合同信念交換会 於大阪コクサイホテル 1/4
  - (f)建築関連11団体事務局会議 於錦業会館 10/14
  - (g)全国鉄構工業連合会へ講師派遣
    - ・超音波検査技術者科学講習会 7/7
    - ・精度検査技術者学科講習会 7/5～7/6、7/9～7/10
    - ・精度検査技術者後継講習会 2/15、2/22
    - ・精度検査技術者実技講習会 10/23～10/28
    - ・鉄骨制作管理技術者講習会

- I 9/28～9/29、10/5～10/8  
親睦会
  - (a)ゴルフ同好会 第19回 於伏尾G. C 5/27  
第20回 於伏尾G. C 11/16
  - (b)碁碁同好会 於碁碁サロン爛柯 11/13

### □1994年度関西支部事業計画

- 1. 通常総会および支部総会 5/25 開催
- 2. 定例研究会
  - ・分科会の成果を発表 構造計画分科会担当
- 3. 見学会
  - ・高層建物および特殊建物
  - ・同和火災ビル（制振装置） 10月頃ゲートタワー、大阪市中央体育馆等
- 4. 研究会活動
  - ・技術委員会の分科会活動として研究会を開催
  - ・分科会の種類—鉄骨、R C、P C、プレファブ、基礎、コンピュータ耐震設計、木造、構造計画、耐久性研究、工業化工法
- 5. 海外研修会 6/11～6/19 ギリシャ古代建築、免震構造建物文化財保存方法視察
- 6. 支部報『Structure Knsai』の発行 年4回
  - ・支部の動向、トピックス、投稿、会員紹介他
- 7. JSKA関西構造家の表彰—受賞者に集まってもらってディスカッションする
- 8. 建築構造士制度運営実施一本部との共管
- 9. 他団体へ講師、委員等の派遣 日経、全構連等
- 10. 親睦会
  - ・親睦会、ゴルフ親睦会、碁碁親睦会
- 11. 関連団体との交流
- 12. 建築家のコンタクト（特に若手）—研究会でディスカッション
- 13. 5周年を記念して「コンクール」を実施—テーマを別途検討  
以 上

## 1993年度支部決算書(自1993年4月1日 至1994年3月31日)

収入の部	収入	科 目	予 算	決 算	備 考
		前期繰越金	695,717	695,717	
		交付金収入	4,100,000	3,327,363	
		研究会費	100,000	74,000	研究会会費
		懇談会費	700,000	588,000	懇談会会費
		受取利息	4,283	1,641	
		雑 収 入	10,000	6,000	書籍販売
		収入合計	5,610,000	4,692,721	
		消耗品費	30,000	0	
事業費	支業費	印刷製本費	0	0	
		通信事務費	100,000	34,456	
		委員会費	1,000,000	619,988	広報、技術、分科会
		研究会費	600,000	806,392	講習会、海外研修会
		調査費	2,000	0	
		懇談会費	700,000	618,866	懇談会開催費
		会誌発行費	900,000	691,771	Structure Kansai 4回
		名簿発行費	200,000	0	
		涉外費	350,000	169,610	関係団体との涉外
		消耗品費	70,000	100,231	事務用品、封筒他
管理費	支理費	印刷製本費	0	0	
		通信事務費	100,000	33,466	
		旅費交通費	0	23,680	
		雑費	200,000	109,706	
		総会費	100,000	148,787	1993年度総会
		幹事会費	60,000	79,147	支部役員会運営費
		委員会費	100,000	66,882	
		賃借料	600,000	600,000	事務補助費
		予備費	300,000	0	
		後期繰越金	0	589,739	
		支出合計	5,621,000	4,692,721	

## 1994年度支部予算書案(自1994年4月1日 至1995年3月31日)

収入の部	収入	科 目	決 算	備 考
		前期繰越金	589,739	
		交付金収入	4,400,000	
		研究会費	100,000	研究会会費等
		懇談会費	700,000	懇談会費
		受取利息	261	
		雑 収 入	10,000	
		収入合計	5,800,000	
		消耗品費	30,000	
事業費	支業費	印刷製本費	0	
		通信事務費	100,000	
		委員会費	1,000,000	広報、技術、分科会活動費
		研究会費	950,000	海外研修会、法人5周年講演会他
		調査費	0	
		懇談会費	700,000	
		会誌発行費	1,000,000	Structure Kansai 4回
		名簿発行費	200,000	
		涉外費	300,000	関係団体との涉外
		消耗品費	70,000	事務用品、封筒他
管理費	支理費	印刷製本費	0	
		通信事務費	100,000	
		旅費交通費	0	
		雑費	200,000	
		総会費	100,000	1994年度総会運営費
		幹事会費	50,000	支部役員会運営費
		委員会費	100,000	
		賃借料	600,000	事務補助謝礼
		予備費	300,000	
		支出合計	5,800,000	

## 1994年度支部役員

## 1994年度委員会委員

支部長 青柳 司(日建設計)  
 副支部長 能勢 善樹(能勢建築構造研究所)  
 副支部長  
 幹事 大塚 讓(清水建設)  
     宇簾 功(松村組)  
     岡田 克幸(昭和設計)  
     日下部 弘(鹿島建設)  
     須賀 好富(近畿大学)  
     長田 正雄(長田建築事務所)  
     林 保(安井建築設計事務所)  
     樋口 元一  
     馬瀬 元一(馬瀬構造設計事務所)  
     真塚 達夫(東畠建築事務所)  
     三輪 哲也(錢高組)  
     松谷 輝雄(鴻池組)  
     八木 大児(平田建築構造研究所)  
 監査 岡嶋 一仁(大成建設)  
     谷尾 俊弘(イオリ建築設計事務所)  
 事務局 板垣 勝善(大林組)  
     大和田精一(日建設計)  
     高垣 利夫(日建設計)  
     近藤 一雄(東畠建築事務所)  
     角 彰(竹中工務店)  
     侯野 博(竹中工務店)  
     八木 貞樹(大林組)  
 顧問 久徳 敏治

- 事業委員会  
 委員長 真塚 達夫(東畠建築事務所)  
 委員 大塚 讓(清水建設)  
     日下部 弘(鹿島建設)  
     寺戸 芳久(日本シソエイ)  
     馬瀬 芳知(馬瀬建築構造設計事務所)  
     山田 裕治(山田建築構造事務所)
- 技術委員会  
 委員長 松谷 輝雄(鴻池組)  
 委員 内田 直樹(日建設計)  
     須賀 好富(近畿大学)  
     金沢 正明(大林組)  
     長井 国雄(鴻池組)  
     棚橋 秀光(日建設計)  
     土居 健二(フドウ研建)  
     八木 貞樹(大林組)
- 選考委員会  
 委員長 林 保(安井建築設計事務所)  
 委員 内田 直樹(日建設計)  
     観音 延平(大林組)  
     長田 正雄(長田建築事務所)  
     能勢 善樹(能勢建築構造研究所)  
     真塚 達夫(東畠建築事務所)  
     松谷 輝雄(鴻池組)

- 広報委員会  
 委員長 板垣 勝善(大林組)  
 委員 岡本 達雄(竹中工務店)  
     小島 達男(馬瀬建築構造設計事務所)  
     高橋 俊二(日本総合研究所)  
     田中 道夫(熊谷組)  
     西村 勝尚(大林組)  
     長谷川 博(大林組)  
     花鳥 晃(日建設計)  
     平野 忠人(竹中工務店)  
     三原 清敬(三原建築構造事務所)  
     三輪 哲也(錢高組)  
     矢田貝隆夫(大林組)  
     山本 博(竹中工務店)  
     丸岡 義臣(竹中工務店)  
     樋口 元一  
     多賀 謙蔵(日建設計)

## 関西支部技術委員会分科会の紹介

表記の各分科会はそれぞれ活発な活動をしております。会員の方ならどなたでも参加できますし、気軽な雰囲気で勉強会をしています。今回は各分科会に参加されているメンバーを紹介します。一人ではと思われる人も、ご存じの方々もおられると思いますのでこれを機会に参加されることをお奨めします。（・印は主査）

### ● R C 分科会〔連絡先 西 邦弘 06-763-7101〕

・須賀好富(近畿大学)	井口忠義(井口設計)	岡嶋一仁(大成建設)	北川 勝(安井建築設計)
進藤汎海(企画設計社)	西 邦弘(キソキ総合設計)	角南貴義(鹿島建設)	永田完治(大林組)
長田正雄(長田建築事務所)	林 保(安井建築設計)	平野忠人(竹中工務店)	保田秀樹(安井建築設計)
馬瀬芳知(馬瀬構造設計)	松岡廣之(修成建設専門学校)	盛久太吉(日本上下水道設計)	吉川繁夫(昭和設計)

### ● P C・工業化工法分科会〔連絡先 上崎行生 06-201-3737〕

・土居健二(フドウ建研)	足立直行(大林組)	上崎行生(フドウ建研)	大内山正英(鴻池組)
大和田精一(日建設計)	加藤俊治(類設計室)	小林勝一(清水建設)	境 敏博(長谷工)
須賀好富(近畿大学)	角南貴義(鹿島建設)	住田耕作(鹿島建設)	田中利幸(竹中工務店)
土居健二(フドウ建研)	珍坂茂規(九段建築研究所)	徳永雄一郎(オリエンタル建設)	戸間 隆(ビー・エス)
花島 晃(日建設計)	北條稔郎(北條建築構造)	宮地三千男(不動建設)	渡辺 勘(大成建設)

### ● 鉄骨分科会〔連絡先 深井敬三 06-203-2366〕

・内田直樹(日建設計)	岡本森廣(全日本コンサル)	奥本英史(竹中工務店)	片迫幹男(類設計室)
勝丸文彦(構造設計研究所)	亀田修身(鹿島建設)	川村紘一(クボタ)	北野茂樹(北野構造設計)
北畠憲雄(ティーエムエッチ)	日下部弘(鹿島建設)	久戸瀬一夫(西洋環境開発)	国本正男(松田平田)
佐々木照夫(竹中工務店)	清水孝悦(大和ハウス)	進藤汎海(企画設計社)	田中道夫(熊谷組)
玉井憲雄(高片組)	筒井茂行(日本建設)	寺戸芳久(日本シンエイ)	中出弘光(鴻池組)
長田正雄(長田建築事務所)	沼田明樹(沼田明樹建築技術)	長谷川博(大林組)	深井敬三(日建設計)
藤田佳広(大林組)	丸岡義臣(竹中工務店)	三原清散(三原建築構造)	山田政武(平安設計事務所)

### ● 基礎分科会〔連絡先 棚橋秀光 06-203-2366〕

・棚橋秀光(日建設計)	岡田克幸(昭和設計)	小宅正躬(旭化成建材)	加藤裕造(竹中工務店)
久保 章(大林組)	小林武夫(日建設計)	新保勝浩(和田建築技術)	須賀好富(近畿大学)
角 彰(竹中工務店)	田中理夫(地建工業)	辻 健(辻建築事務所)	柄尾 実(山田建築構造)
中西克実(東京ソイル)	長田正雄(長田建築事務所)	野尻善正(フジタ)	前田利広(大林組)
松尾雅夫(安井建築設計)	村上勇治(清水建設)	安田善一(大成建設)	安田光世(安田建築事務所)
山田祐治(山田建築構造)	山盛保男(詳建築設計)		

### ● 耐震設計分科会〔連絡先 金澤正明 06-946-4691〕

・金澤正明(大林組)	足立博之(三建設)	石鎚貴志(鹿島建設)	井上重信(浅沼組)
入江 豊(I S D設計)	上杉 章(上杉建築構造)	鶴飼邦夫(日建設計)	宇川 勝(宇川建築設計)
宇藤 功(松村組)	小松茂一(高松建設)	瀬川輝夫(竹中工務店)	谷尾敏博(イオリ建築設計)
長田正雄(長田建築事務所)	西村勝尚(大林組)	樋笠康男(長田建築事務所)	久枝 稔(清水建設)
深野 廉(大林組)	福山国夫(竹中工務店)	山中靖男(T K設計)	

### ● コンピュータ分科会〔連絡先 長井国雄 06-244-3591〕

・長井国雄(鴻池組)	青柳 司(日建設計)	魚木晴夫(シー・アンド・シー)	太田和彦(新井組)
勝丸文彦(構造計画研究所)	亀井 功(大林組)	河本 純(長谷工)	北川 勝(安井建築設計)
北村俊次郎(日本総合研究所)	新保勝浩(和田建築事務所)	鈴木厚雄(竹中工務店)	高橋俊二(日本総合研究所)
多賀謙蔵(日建設計)	辻 英一(安井建築設計)	筒井茂行(日本設計)	中川佳久(安井建築設計)
福田 近(大和ハウス)	増田廣見(エース構造設計)	山下雅也(奥村組)	山本 滋(長谷工)
和田 勉(和田建築技術)			

### ● 木構造・構造計画分科会〔連絡先 福本早苗 06-946-4725〕

・木林長仁(竹中工務店)	八木貞樹(大林組)	嵐山利信(久米建築事務所)	泉 洋輔(能勢建築構造)
犬飼一夫(日建設計)	井上 茂(錢高組)	今井克彦(川鉄建材)	上杉 章(上杉建築構造)
上仲茂生(N T T 関西不動産)	漆原宣広(五洋建設)	江西 修(江西建築事務所)	大野時男(浅沼組)
大野俊夫(奥村組)	小田憲史(太陽工業)	樋原健一(鴻池組)	加藤泰夫(フジタ)
河田康夫(竹中工務店)	河本 純(長谷工)	北川 勝(安井建築設計)	越野栄悦(J R西日本コンサル)
小幡桂次(小幡建築事務所)	近藤一夫(東畑建築事務所)	斎藤幸雄(日建設計)	角 浩一(日建設計)
高木和芳(トリスミ集成材)	田中利幸(竹中工務店)	田中道夫(熊谷組)	遠山英男(東西建築サービス)
中井功一(中井建築設計)	中川佳久(安井建築設計)	長野賢治(大和ハウス)	沼田明樹(沼田明樹建築技術)
林原純子(構造フォルム)	原 克己(日建設計)	東 健三(清水建設)	久徳敏治(竹中工務店)
福村尚登(間組)	福本早苗(大林組)	福山国夫(竹中工務店)	藤原君夫(ティーエムエッチ)
古久保惠一(竹中工務店)	北條稔郎(北條建築構造)	松井晃一(類設計室)	宮崎英也(山田建築構造)
向 芳孝(類設計室)	森田秀喜(安井建築設計)	盛高英夫(安井建築設計)	山本 博(竹中工務店)
吉田卓生(清水建設)	米田 裕(新建技術研究所)	和田 勉(和田建築技術)	

## 会員紹介

柄尾 実

(勤) 株山田建築構造事務所

(趣) スポーツ観戦

(ゴルフ・野球等)



建築の構造設計を始めて9年になりました。判らない事がまだ多く、悩む事がたくさんあります。ゴルフも始めて3年になりますが、なかなか上手くなりません。『構造が判ってくれれば少しこれも上手くなるのでは?』と努力している毎日です。宜しく御願いします。

安達 昭二

年令も60才を過ぎました

とき、そろそろ脱サラと、

事務所を開設して1年半た

ち、昨今毎日多忙。或は空回りかも?



趣味は、色々やりましたが、今は体力的にほどほどの月1~2回のゴルフ位で、歴14年、スコアは年数に反比例、只々ストレス解消オンリーです。

若いときあこがれた建築に入り40年余り、大きな組織で歯車として全般の仕事をしているうちに余りセンスのない意匠部門から、自分の好む構造に入り約25年、これ又奥が深く未だ未完成、JCSAに入会させていただき、勉強のチャンスがふえて喜んでいます。

### ●支部の動き

- 4/13 事業委員会 於北浜ビジネス会館
- 4/21 支部委員会 於北浜ビジネス会館
- 5/17 第21回ゴルフ同好会コンペ 於加茂カントリー 48名参加
- 5/25 定例研究会 構造計画分科会主催
- 5/25 支部総会 於建設交流館
- 5/25 懇親会 於建設交流館
- 6/2 海外研修会説明会
- 6/3 総会(東京) 於グランドパレス
- 6/11~6/19 海外研修会  
訪問先 アテネ(ギリシャ) 27名参加 以上

**編集後記** 記録的な酷暑をして水不足と、厳しい夏も過ぎ、朝夕は秋のきざしが忍び寄る季節になりました。世間は相変わらず不景気風が吹いていますが、会員諸氏の活力で早く吹き飛ばしたいものです。今号は総会記事が中心ですが、日本に在住の外国人技術者に御寄稿願い、日本の印象や自国の紹介をしていただきました。当誌の発行も遅延気味で皆様には御迷惑をお掛けし申しわけありません。

(丸岡 長谷川)

発行(社)日本建築構造技術者協会関西支部事務局  
㈱竹中工務店 大阪本店設計部 担当 保野 博  
TEL(06)538-5371-(5700) FAX(06)538-5445

信田 英仁

(勤) (有)ノブ建築構造設計

(趣) 散歩・写真



学校を出て以来、十年余、構造設計を仕事としてきた。自分では、それなりと思い、自分の事務所を設けたものの、改めて思い知らされたのは、自分の不勉強さ加減である。改めて、設計というものに取り組む必要性を感じる今日この頃である。ヤダケド。

小川 繁紀

(勤) 日本上下水道設計株

西部支社施設部

(趣) 映画鑑賞、囲碁



設計コンサルタント会社に入社して14年になります。最近の技術の進歩には驚くばかりです。卒論では有限要素法による解析を行いましたが、コンピュータの容量を気にしながらのものでした。そのころがなつかしく感じられる今日この頃です。

## 第21回 J S C A 会成績表

平成6年5月17日(火) 晴

於 加茂CC

参加46名 ★印 初参加

	氏名	O U T	I N	G R O S	H D	N E T	R A N K
1	保野 博	4 5	4 5	9 0	2 7	6 3	優勝
2	★新保 勝浩	4 3	4 6	8 9	2 5	6 4	2位
3	竹ノ上 幸一	5 2	4 4	9 6	2 7	6 9	3位
4	安田 光世	4 4	4 2	8 6	1 6	7 0	4位
5	和田 勉	4 1	4 7	8 8	1 7	7 1	5位
6	谷尾 俊弘	4 5	4 9	9 4	2 3	7 1	
7	★奥寺 道彦	4 6	5 0	9 6	2 4	7 2	7位
8	眞塚 達夫	4 1	4 3	8 4	1 1	7 3	
9	山口 正雄	4 7	5 1	9 8	2 5	7 3	
10	★山本 豊弘	5 0	4 4	9 4	2 1	7 3	10位
11	藤田 忠正	5 2	4 7	9 9	2 5	7 4	
12	西座 広昌	4 8	4 8	9 6	2 2	7 4	
13	小松原 操	4 9	4 7	9 6	2 2	7 4	
14	須見 光二	4 4	4 8	9 2	1 8	7 4	
15	長田 正雄	5 0	5 2	1 0 2	2 6	7 6	15位
16	馬瀬 芳知	4 3	4 0	8 3	7	7 6	
17	勝丸 文彦	5 1	5 1	1 0 2	2 6	7 6	
18	下橋 勝	4 6	4 3	8 9	1 3	7 6	
19	★上田 昇	4 9	4 8	9 7	2 0	7 7	
20	宮野 穎三	5 1	4 6	9 7	2 0	7 7	
21	竹内 忠彦	4 1	4 8	8 9	1 2	7 7	21位
22	佐久間周治	5 8	5 2	1 1 0	3 3	7 7	
23	北畠 憲雄	5 3	5 4	1 0 7	3 0	7 7	
24	日下部 弘	4 3	5 1	9 4	1 6	7 8	
25	岡田 英昭	4 9	4 0	8 9	1 1	7 8	25位
26	★仲尾次 稔	5 5	4 9	1 0 4	2 6	7 8	
27	三好 裕司	5 5	5 2	1 0 7	2 9	7 8	
28	後藤 文吉	4 9	5 1	1 0 0	2 1	7 9	
29	渡辺 泰昭	5 2	5 3	1 0 5	2 6	7 9	
30	平見 殖	4 8	4 7	9 5	1 4	8 1	30位
31	梅木 信正	4 8	4 4	9 2	1 0	8 2	
32	脇山 広三	5 5	5 5	1 1 0	2 8	8 2	
33	★根岸 宏年	5 0	5 0	1 0 0	1 8	8 2	
34	宮本 義博	4 6	4 8	9 4	1 1	8 3	
35	★飯田 和明	4 6	5 6	1 0 2	1 8	8 4	35位
36	渡辺 博	5 1	5 6	1 0 7	2 2	8 5	
37	山田 裕治	5 5	5 5	1 1 0	2 5	8 5	
38	江西 修	5 0	5 0	1 0 0	1 5	8 5	
39	松浦 英一	5 4	6 4	1 1 8	3 3	8 5	
40	五十嵐定義	5 6	6 0	1 1 6	2 9	8 7	40位
41	★定岡 敏明	5 7	5 0	1 0 7	2 0	8 7	
42	丈野 栄三	5 0	5 6	1 0 6	1 8	8 8	
43	谷丸 正英	5 1	5 7	1 0 8	1 8	9 0	
44	★多賀 秀俊	6 1	5 4	1 1 5	2 4	9 1	
45	山肩 邦男	5 3	6 3	1 1 6	2 1	9 5	B B
46	菊田 久	5 7	6 6	1 2 3	2 7	9 6	

ニアビン: 安田(2)、新保、下橋、谷丸、飯田、眞塚、和田  
ドラコン: 新保、須見、奥寺、山本、ベスグロ: 馬瀬

次回ハンデ: 保野17、新保18、竹ノ上24

平均ストローク 99.8

西 邦弘

(勤) キンキ総合設計

(趣) ゴルフ、テニス、水泳



建築構造設計の部会や研究会を通じていろんな方々とのめぐり会いが楽しみで過しています。業務が多忙で毎日がとても早く過ぎる。それ故に健康維持のため水泳を毎週やっています。これからもどの分野でも頑張ろうと思いますので、皆様よろしく御指導の程お願いします。

宮崎 英也

(勤) 株山田建築構造事務所

(趣) ゴルフ、車、JRA



建築構造設計事務所に入社して10年となり、私が関わった建築物の完成を見るたびにいきがいと責任の重さを感じている今日この頃です。現在、構造計画分科会に参加して他社の建築構造技術者のいろいろな意見を聞くことが私にとって有意義な時間の1つとなっております。